

日高山脈博物館紀要「日高山脈研究」－原稿の体裁

1. 原稿は原則として日本語で作成する。一部下記のとおり英語併記を求める部分がある。
2. 原稿は A4 用紙横書きで、40 字×30 行とし、周囲に十分な余白を取る。
3. 原稿は、**タイトルページ**、**要旨**、**本文**（謝辞は末尾）、**引用文献**、**図表**、**図表の説明文**（**キャプション**）で構成するものとし、それぞれは個別ファイルとするか、新しいページから始める。また、タイトルページを含め、原稿には必ずページを振る。
4. 原稿については、受理後に編集担当が、体裁を整える等、それぞれ編集する場合がある。
5. **タイトルページ**については、日本語および英語で、タイトル、著者名、著者の所属や連絡先を付記する。
6. **要旨**については、日本語要旨のあとに英語要旨（abstract）を付記する。日本語要旨は原則 400 字以内、英語要旨は原則 300 語以内とする。それぞれの要旨の後には、それぞれの言語でキーワード（6 つまで）を付記する。なお、英文については、著者の責任において、正しい英文にして提出する。
7. **本文**における文章や文体等については以下のとおりとする。
 - (1) 文体は口語常態（だ・である体）とし、現代仮名遣いを用いる。
 - (2) 句読点は、全角の「,」「.」を用いる。
 - (3) 読み誤るおそれがある固有名詞や地名などについては、ふりがなをふる。
 - (4) 数字にはアラビア数字を用い、アルファベットなどと同じく、原則半角文字とする。
 - (5) 単位には原則として国際単位系（SI）に従う。ただし、専門分野で慣用化されている場合には、その限りではない。
 - (6) 本文中の文献の引用は、次の例のように従う。また、著者が 3 名以上のものについては、「(筆頭著者名) ほか」または「(First author) et al.」とする。表記に従い、本文中で同一著者・同年となる論文については、年号の後に小文字のアルファベット (a, b, …) をつけて区別し、引用文献欄の表記 (8.(1), (3)参照) と整合性をもたせること。

大立目 (1940) は——。
——との斜め衝突 (Kimura, 1996 ; 木村・楠, 1997)
——確認されている (Bach et al., 2004, 2006 ; *森下ほか, 2008a, b など)
——本山ほか (1991) や Takashima et al. (2004) による夕張地域——
Ito and Arem (1970) によると——。
- (7) 共著者以外の未公表データを用いるときは、「(〇〇, 私信)」と必ず明記すること。しかし、未公表データに関しては極力引用しないことが望ましい。

8. 引用文献については、以下のとおりとする。

- (1) 本文中ならびに図表中において引用した文献は全て「引用文献」として本文末に一括し、著者名がアルファベット順となるように配列する。同一著者による論文は年号の古い順とし、同一著者・同年の論文については、年号の後に小文字のアルファベット (a, b, …) をつけて区別する。
- (2) 引用文献は、本文および図表中に引用されたものに限るが、その全てを掲載しなくてはならない。
- (3) 文献欄の記載については、下記の例にならって記載すること。特に、2 行以上にわたる時、2 行目以下は 2 字分 (和文活字相当) 下げて書く。

1. 論文【著者名, 発行年, 論文タイトル, 雑誌名, 巻, ページ数】

大立目謙一郎, 1940, 北海道中部に於ける下部菊石層と輝緑凝灰岩層の層位関係に就て. 北海道地質調査会報告, 11, 1-48.

木村 学・楠 香織, 1997, 日高造山運動と島弧会合部のテクトニクス. 地質学論集, 47, 295-305.

Takashima, R., Kawabe, F., Nishi, H., Moriya, K., Wani, R. and Ando, H., 2004, Geology and stratigraphy of forearc basin sediments in Hokkaido, Japan: Cretaceous environmental events on the Northwest Pacific margin. *Cretaceous Research*, 25, 365-390.

*森下知晃・荒井章司・田村明弘・石田義人, 2008a, 北海道日高町の濃鮮緑色角閃石斑状変晶を含む角閃岩転石の岩石学. 岩石鉱物科学, 37, 1-14.

*森下知晃・中村謙太郎・澤口 隆・原 香織・荒井章司・熊谷英憲, 2008b, 海洋リソスフェアの熱水変質に伴う元素移動. 地学雑誌, 117, 220-252.

※本文中の表記 7.(6)に従うと、筆頭著者以降の著者が異なる双方とも「森下ほか (2008)」となり、それぞれを独立させるため「森下ほか (2008a)」「森下ほか (2008b)」とする必要がある。この場合、整合性を保つため、文献欄での表記はこのように記載する。

2. 書籍【編著者名, 発行年, 書籍タイトル, 出版社名(外国の場合は所在地も), 総ページ数】

O'Hanley, D. S., 1996, *Serpentinites-Records of Tectonic and Petrological History*. Oxford Monographs on Geology and Geophysics, 34, Oxford University Press, Oxford, 277p.

鈴木 守・在田一則・新井田清信, 1974, 三石・えりも岬・広尾地質案内. 日本地質学会北海道支部, 31p.

日高町史編纂委員会, 1977, 日高町史. 日高町役場, 1075p.

3. 論文集や書籍の一部など【著者名, 発行年, 論文タイトル, 編者名, 書籍タイトル, 出版社名(外国の場合は所在地も), ページ】

吉田孝紀・新井田清信, 2002, 蛇紋岩と火山の海. 『夕張 1 億 5 千万年の歴史 - 大地が語るもの -』, 夕張市教育委員会, 27-30.

植田勇人, 2010, イドンナップ帯. 日本地質学会編『日本地方地質誌北海道地方』, 朝倉書店, 29-38.

Miyashiro, A., 1977, Subduction-zone ophiolites and island arc ophiolites.
In Saxena, S. K. and Bhattacharji, S. eds., *Energetics of Geological Processes*, Springer-Verlag, New York, 188-213.

Tatsumi, Y. and Maruyama, S., 1989, Boninites and high-Mg andesites: tectonics and petrogenesis. *In* Crawford, A. J., ed., *Boninites*, Unwin Hyman, London, 51-70.

4. 学会等の講演要旨【著者名, 発行年, タイトル, 要旨集名, ページ数】

山崎大輔・新井田清信, 1993, 神居古潭帯岩内岳カンラン岩体: 高 Mg-カンラン岩中のマグマチャネル. 日本地質学会第 100 年学術大会講演要旨, 575.

川村信人・吉田孝紀・植田勇人, 2008, 白亜系蝦夷層群の層序区分と広域的対比について. 日本地質学会第 115 年学術大会 (秋田) 講演要旨, 195.

久田健一郎・忽滑谷優里・折橋裕二・小室光世, 2010, 牟婁層群 quartzite 礫の碎屑性ジルコン U-Pb 年代測定と供給源. 日本地球惑星科学連合 2010 年大会予稿集, CD-ROM, SGL046-03.

5. 巡検案内書など【著者名, 発行年, タイトル, 案内書名, ページ数】

Niida, K., Takahashi, N., Takazawa, E., Sawaguchi, T., Morishita, T., Ozawa, K., Arai, S., Obata, M., 2002, Guide Book for Field Excursion to the Horoman Peridotite Complex. *Fourth International Workshop on Orogenic Lherzolites and Mantle Processes*, Aug. 26-Sep. 3, 2002, Samani, Hokkaido, Japan. 98 p.

辻森 樹・宮島 宏・竹之内 耕, 2001, 糸魚川-青海地域の古生代高压変成岩. 日本地質学会第 108 年学術大会見学旅行案内書, 157-177.

6. 地質図等【著者名, 発行年, タイトル, 出版社名】

松下勝秀・鈴木 守, 1962, 5 万分の 1 地質図幅説明書「農屋」. 北海道開発庁, 38p.

和田信彦・高橋功二・渡辺 順・蟹江康光, 1992, 5 万分の 1 地質図幅説明書『三石』. 北海道立地下資源調査所, 73p.

日高山脈館, 2000, 日高町の地質図. 日高山脈館.

9. 図表については以下のとおりとする。

- (1) 口絵以外の投稿原稿の図・写真・表の類は次の3種類に分け、それぞれ番号をつける。
 - a. 図 (Fig.) : 本文中または折り込んで入れる図および写真.
 - b. 表 (Table) : 本文中または折り込んで入れる記号・文字・罫線のみからなるもの.
 - c. 図版 (Pl.) : 通しページを付さない独立のページとして印刷される写真
- (2) 図表は、1枚ごとに、ファイル名に、著者名、図表の番号を略記する。
- (3) 図表のファイル名にて、(2)で示す著者名ならびに図表の番号の略記をしてもよいが、その場合、全てファイル名に使用できる半角英数字や記号を用い、さらにファイルごとの表記の統一を図ること。

例1 : 著者名が「日高ほか」の原稿の図1を示したい場合、「Hidaka_et_al-Fig.1.jpg」など。

例2 : 著者名が「日高ほか」の原稿の図2~4を1つのファイルにまとめた場合、「Hidaka_et_al-Fig.2-4.pdf」など。ただし、この場合、1ページごとに(2)で示す図表の番号を付記すること。
- (4) 図や図版の内容の大きさを示すには、何分の1としないで、縮尺(スケール)を図や図版中に書く。
- (5) 図・表・図版ともに、印刷したときの品質が鮮明になるように、十分な精度を持ったファイルを提出する。印刷に耐えられない場合、編集担当より再提出を求めることがある。
- (6) 本文に引用されない図表は掲載してはならない。

10. 図表の説明文(キャプション)については以下のとおりとする。

- (1) キャプションのタイトル部分はゴシック体とする。
- (2) キャプションは、可能な限り日本語と英語を併記する。英文については、著者の責任において、正しい英文にして提出する。

キャプションの一例

図5. 本研究で用いるロジン岩化蛇紋岩質テクトナイト中のスピネルのCr#-Mg#図(A)とCr-Fe³⁺-Al三角図(B). 他のスピネルの化学組成は Tamura et al.(1999)および Tamura and Arai (2006), 部分熔融トレンドは Niida (1997)による.

Fig.5. Cr# vs Mg# diagram (A) and Cr-Fe³⁺-Al ternary diagram (B) of spinel in the studied rodingitized serpentinite tectonite. References of the chemical composition of spinels are after Tamura *et al.* (1999) and Tamura and Arai (2006). Arrow for partial melting trend is after Niida (1997).